

しあわせ

令和7年11月28日(金)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
1年 学年だより 12月号

秋祭り、大成功！！

学校公開日の朝、2時間目に公開する「秋まつり」の準備をしているときの事です。ある子が、前日までに段ボールで作っておいだ「的あてゲーム」の的が壊れかかっていることに気付きました。その子は何人かのグループで「的あてゲーム」を作っていたのですが、お客さんと呼んでの本番を目前にして、これまでに一生懸命作ってきた的が壊れてしまったことに焦り「どうしよう、これじゃ(ゲームが)できないよ…」と、半ば泣き出しそうな声でつぶやき、途方に暮れている様子でした。廊下には、2時間目に向けて家の人や地域の人が集まり始めています。近くで見ていた私は、つい、「まずい、もうお客さんが入ってくる…。とにかくあと数分で何とか復元しなくては…」と、大人の都合を気にして助け舟を出そうとしました。しかし、そんな私よりも早く「大丈夫、何とかしよう！俺、もとの形覚えてるから大丈夫だよ！〇〇君ここ持ってて！先生、ガムテープありますか？」と、同じグループの子が動き出しました。その声を皮切りに、他の子たちも続々と集まり、あっという間に大きな的を元の形まで復元してしまいました。あっという間に、と言っても、子どもたちは決して雑な作業をしていた訳ではありません。「ここは小さい子がねらえるようにしたかったからもっと低い位置に紙コップを置いて…」「大人の人はこのラインから撃ってもらうんだったよね…」「これじゃゴムが当たっても紙コップが落ちないから…」と、しっかりといろいろなお客さんを想定して、小さい子から大人まで、みんなに楽しんでもらえるようにという自分たちのこれまでのこだわりを大切にする姿が見られました。

これだけでも素敵な姿なのですが、私が最も感動したのは、「的あてゲーム」のグループではない子も進んで的の修復を手伝っていたことです。他の子はどんなコーナーを作っているのか、どんなこだわりをもっているのか。自分のことだけでなく、仲間にも目や心が向いているからこそ、自然と行動に表れたのだと思います。ある子は、「秋まつり」が終わった後の振り返りで、「自分のお店だけじゃなくて、みんなのお店にたくさんお客さんが来てくれたことが大成功だったね」と発言していました。

こうした子どもたちの姿は、まさに「秋の自然を感じながら、それをゲームやものづくりに生かしてみんなで楽しい秋まつりを創り、来てくれたお客さんにも楽しんでもらう」という「秋まつり」のねらいを具現化した姿であると言えます。さらに言えば、こうした姿は生活科という教科だけで育ったものではなく、普段の学校生活全体を通して培われてきたものだとも思います。

学校は多くの人と巡り合う場です。自分一人では得られない経験を得ることができる場でもあるでしょう。学級のみならず行事に向かって協力をしたり、授業の中で友達と語り合ったりする経験は「しあわせ」であり、自身の成長へと大きくつながります。だからこそ、巡り合った仲間との関わりを大切にしながら学校生活を楽しく送ってほしいと願います。またその際には自分の「しあわせ」だけでなく、仲間の「しあわせ」も同じように大切にするやさしい心も育ててほしいです。

学年名「しあわせ」に込めた願いより抜粋

「しあわせ」の103人の子どもたちは、4月からの8か月を通して、少しずつ、しかし確実に成長しています。引き続き、保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いします。

